

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は「〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 応用獣医学連合講座 浅井鉄夫」までお願いします。

〔編集後記〕

2024年10月17日に発生した高病原性鳥インフルエンザから2022年シーズンに匹敵するペースと業界・行政が注意喚起を図っていましたが、新年を迎えても依然として発生が続いています。一方、豚熱は農場での適したワクチネーションの時期や防疫管理の徹底が図られながら、野山を駆け巡るイノシシの豚熱感染拡大が続いています。この2つの病気は「野鳥から鶏」「イノシシから

豚」のように野生動物が発生に強くかかわり、自然界で感染環を作りながら、飼育動物へウイルスを巻き散らしています。

野生動物が持っている病原体のすべてが明らかになっているわけではありません。これは、調べられないからですが、サンプルが入手できない、特定地域の調査を行いたくても捕獲できる個体に限られるなど、いろいろな問題があるからです。小生の家の周りでも、キツネ、イタチ、アライグマ、タヌキなど人の生活圏でも平気に生息する野生哺乳類を見かけます。どんな病原体を持っているかいつか調べようと思います。

「ALL about SWINE」
第66号

ISSN 0918-371X
年2回発行

2025年2月発行 定価1,500円
発行者 小林 秀 樹
編集者 浅 井 鉄 夫
発行所 日本 SPF 豚 研 究 会
事務局 〒305-0856
茨城県つくば市観音台3-1-5
国立研究開発法人 農研機構
動物衛生研究部門 内
info@jp-spf-swine.boo.jp